

事例部門 優秀賞（長野県建築士会会長賞）

安曇野の平屋の家

所在地 安曇野市
構造 木造平屋建
延べ面積 238.44㎡
応募者 尾日向 辰文

作品のコンセプト

安曇野のこの地を選び移住した50代夫婦の平屋の住まいです。安曇野のシンボルの常念岳に向かう軸線に沿って、奥に向かうに従いプラバイシーのレベルがあがる順に生活のスペースを配置し、ワンルームのように一体に構成しました。また、二方向の接道を生かし、通り抜けできるクルマの動線を設定し、途中に駐車スペースを配置しました。そこに一枚の大きな片流れの屋根を架け、おほかたで伸びやかな外観をつくりました。



・北アルプスを控えた里山の裾野の安曇野の田園風景の中に違和感なく馴染む、据わりのいい佇まいを創出
・車椅子での生活も考え、道路から室内まで段差を解消（引きのあるスロープで吸収）



リビングから見たダイニング ・薪ストーブで全館暖房 ・県産材を多用した住まい



リビングから見たワークスペース



松本市街地まで望めるサンルーム
・サンルームは、内と外を穏やかに繋ぐ、空間の緩衝帯

信州での「住まい方」 応募者の思い

リタイア後の人生を、新割りをしたたり、趣味の手仕事を楽しんだり、安曇野の自然を身近に感じながら暮らし。周囲に開けた地形を活かし、塀やフェンスなどの囲いを作らず、敷地と周辺環境をおお

かに繋げ、穏やかに地域社会と繋がる住まい。肌で感じる地域材の豊かな素材感、心地良いスケール感など…。

審査員講評

この作品は安曇野の田園風景の中に何の違和感もなく、しっかり里山の大地に根付いている新しい住宅の佇まいである。しかも設計者はこの住宅の近隣で幼少期から現在も生活し最もこの地の環境を知り尽くしている。原風景である常念岳を控えた外観のプロポーションの素晴らしさ

と内部に入ると信州各地の木材を使い、夫々の《匠の技》の手仕事溢れ、豊かな居心地の良い快適な空間に都会から安曇野に移住されたご夫妻はご満足して信州での生活を満喫できる住まいである。（荻原 白）